



パリで第2回「レヴェラシオン」展

出展・来場者増え注目

クラフト作品の発表とビジネスの場

【パリ=松井孝予通信員】

ファインクラフト&クリエー
ションフェアの第2回「レヴ
エラシオン」がこの秋、パリ
のグランパレで開催された。
出展者、来場者ともにその数
を大きく伸ばし成功を収め、大
きなビジネスの場として注目さ
れた。

「ひらめき」「新星」など
の意味を持つ「レヴエラシオ
ン」と名付けられたこのフェ
アは、2年ごとに開催され
る。6000人の手工芸職人
で組織する「アトリエ・ダ
ル・ド・フランス」が、現代
のすばらしいハンドクラフト
の最新作を発表し、それをビ
ジネスにつなげる場として13

年に始まった。2回目の今回

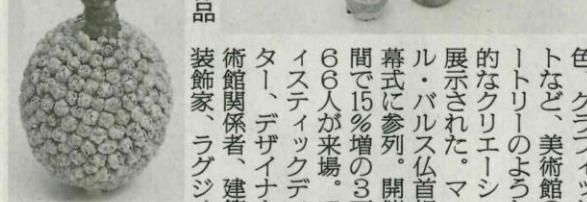
は、初回より13%増の340
のクリエーターや団体が出
展。うち仏国外からの出展が
17カ国70人以上で、国際性を
より高めた。宝飾、時計、装
飾、レザー、メタル、陶芸、
ガラス、帽子、ドレス、コル
セット、テキスタイル、染
色、グラフィックアートなど、美術館のレパ
ートリーのような専門
的なクリエーションが
展示された。マニュエル・バルス仏首相が開
幕式に参列。開催5日
間で15%増の3万85
66人が来場。アーテ
ィスティックディレク
ター、デザイナー、美
術館関係者、建築家、
装飾家、ラグジュアリ
ー、メゾン、ギャラリー経営者
などプロフェッショナルが全
ての33%を占め、「活発な商
談が行われ多くの売買契約が
成立し、次作に向けた協業ブ
ロジェクトも進行中」と主催
者。「このフェアは文化的成
功を超えて、同セクターのビジ
ネスに不可欠なものになっ
た」と強調した。



金子晴彦さんのスタンド



岡本真希さんの作品



栗原香織さんの
作品

マニュエル・バルス仏首相が開幕式に参列。開催5日間で15%増の3万8566人が来場。アーティスティックディレクター、デザイナー、美術館関係者、建築家、装飾家、ラグジュアリー、メゾン、ギャラリー経営者などプロフェッショナルが全ての33%を占め、「活発な商談が行われ多くの売買契約が成立し、次作に向けた協業プロジェクトも進行中」と主催者。

「このフェアは文化的成功を超えて、同セクターのビジネスに不可欠なものになつた」と強調した。

日本からは石垣焼の金子晴彦さんが初回に続いて出展し、琉球の海色の作品が仏モンド紙に取り上げられるなど、高い評価を得た。金子さんは5年前にメゾン&オブジェのクラフトに出展。それを機に、現在カルーゼル・デュ・ルーブルで開催されている1725年創設のサロン・デ・ボザール（美術展）に選出され、グランパレへと続いた。レヴエラシオンへの出展は、美術館関係者らの厳しい審査を通過しなければならない。伝統工芸は当たり前、それを超えたアートをしなければ。本当に厳しいがここに出品するために創作すること

い。「伝統工芸は当たり前、それを超えたアートをしなければ。本当に厳しいがここに出品するために創作すること

い。」と金子さん。バイヤーはクリスティーズや世界の美術館だ。「自分の作りたいものを作り、それを好きになってくれる人を待つことになった。それは正解だった」と話す。

栗原香織さんは、パリのビ